



	<p>それでは、まず、選定に至る経過の説明を事務局よりお願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、選定に至る経過の説明をいたします。 この場についても、着座で説明させていただきます。 高石市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則に基づき、本年4月より教科用図書の採択事務に取りかかったところです。小・中学校長2名、保護者代表2名、教育委員会事務局2名から成る選定委員会を開催しました。 第1回については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、書面開催としました。また、2市1町で5月8日に、2市1町教科用図書選定資料作成委員会及び調査委員会を開催し、教科用図書採択に係る調査資料の作成に取りかかり、約1か月半の調査を経て、報告書をまとめていただきました。 2市1町教科用図書選定委員会の資料作成委員会は、本市と泉大津市、忠岡町の2市1町で設置しており、構成としては選定資料作成委員に2市1町の中学校教頭及び教育委員会事務局指導主事を任命し、選定資料作成のための調査員には、同じく2市1町の中学校の教諭を任命しました。7月2日に2市1町で令和3年度使用教科用図書選定資料報告会を開催し、教科用図書選定資料作成委員会の調査に基づき作成された報告書の説明を受けるとともに、第2回選定委員会を開催しました。その後、第3回選定委員会を7月6日に開催し、選定資料報告会と前回の話し合いを基に検討をしました。この検討の内容について、各教科ごとに説明をさせていただきます。 なお、コロナ感染症の状況を踏まえて、できるだけ簡潔な説明にしたいと思いますのでご了承ください。</p>
木寄教育長	<p>分かりました。まず、教科書展示会の様子についての報告をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>法令に基づき、高石市立教育研究センターで令和2年6月8日から令和2年7月8日までの期間、教科書展示会を行いました。高石市内13名、高石市外7名の方が閲覧にいられたことを報告します。</p>
教育部長	<p>本日は、先ほども申しましたとおり、各委員さんの質疑等につきまして、私と選定委員会のメンバーである学校教育課長から選定委員会の意見を答申として教育委員会に報告しながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
木寄教育長	<p>これまで私たち委員自身も責任の重大さを認識しまして、1か月にわたり研究を進めてまいったところでございます。さらに、選定委員会からの報告も参考にしながら審議を進めてまいりたいと考えておりますが、よろしいですか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
木寄教育長	<p>異議なしということですので、そのように進めさせていただきます。 それでは、まず、最初の種目、中学校の国語についての審議をお願いします。各者の教科書の特徴について、選定委員会からの意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、国語の説明をさせていただきます。 新しい学習指導要領の趣旨にのっとり、国語だけではないんですが、全教科、教科書とその教科書にデジタルのコンテンツ、これが全てに網羅されています。その中で教科の授業を進めながら、そういう動画を見、1人1台配備されるタブレットを使ってハイブリッド型の授業を進めるということが各者の特徴になっています。学習指導要領</p>

	<p>の言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質、能力を育成するための工夫がされているということです。</p> <p>まず、東京書籍では、巻頭の学年で学ぶこと、巻末の言葉の力の一覧により、3年間を通した学習の全体を系統的に見通すことが可能となっています。主体的、対話的で深い学びが実現されるよう、形式を統一する等の配慮がされています。</p> <p>次に、三省堂では、現代社会の課題をテーマにした説明的な文章や悩み、葛藤、人間の生き方について考えを深める文学的な文章が取り上げられており、学習意欲を高める工夫がされています。また、1,000語を超える語彙により、多様な観点から語感を磨けるようになっていきます。</p> <p>次に、教育出版では、各単元にキーワードを示し、国語で学ぶべき課題や現代的な課題を幅広く設け、生徒が様々な課題について考える手だてとしたり、学びナビを設け、教材の学び方を示したりするなどの工夫が見られます。</p> <p>最後に、光村図書ですが、多様な作品がバランスよく掲載されています。主たる教材以外にも作品の一部や詩歌が紹介され、生徒が主体的に語彙を広げ、語感を磨くことができる工夫がされています。主体的、対話的で深い学びを実現する手引を提案されています。</p>
西中委員	<p>最近の子供というのは本を読まないとよく言われるわけなんですけれども、やっぱり国語では読書力をつけるということが非常に大事なことであると思います。だから、そういう意味から教科書を見ているわけなんですけれども、中学校の学習指導要領を見てみると、各学年の目標に言葉の持つ価値を認識して進んで読書をするとか、あるいは読書を生活に役立てる、読書を通して自己を向上させるといったような文言があるわけで読書力をつけることが中学校の国語の非常に大事な目標になっています。そういう点から、各者どのような特徴があるのか、ちょっと触れていただけたらありがたいんです。</p>
学校教育課長	<p>東京書籍では、本で世界を広げる、また、本の世界を楽しもうでは、様々なテーマや本を紹介して、読書に親しむことができるよう配慮されています。</p> <p>三省堂では、作家の読書体験を紹介する私の読書体験や、テーマ別に書籍を紹介する小さな図書館、各学年に関連する書籍を紹介する私の本棚などのコーナーにより、生徒が読書に親しむ工夫がされています。</p> <p>教育出版では、單元ごとに広がる本の世界で、単元のキーワードと関連する図書を紹介し、読書の視野を広げる工夫をしています。</p> <p>最後ですが、光村図書では、書籍の紹介だけでなく、読書に近い活動が取り上げら、生徒の豊かな読書生活につながるよう配慮されています。</p>
西中委員	<p>今、課長さんから話がありましたように、確かに光村図書は読書を楽しむというテーマで、生徒が読書生活をできるように配慮されているところが、ずっと国語の本を見させていただいて、そういうところが非常に特色ではないかと思いました。</p>
佐野委員	<p>読書と関連して、読み取るということでは、三省堂は、読むことの教材の後に、読み方を学ぼう、また、教育出版は、教材の前に見通しを持つための学びナビ、そして、光村図書は、教材の終わりに学習の窓で捉える箇所など基本的な観点を示している、この点がいいかと思えます。</p>

吉村委員	<p>今、西中委員、佐野委員も言われたように読んで内容を読み解くというのが国語の基本だと思いますけれども、最初、選定委員長が言われたように、どの教科でも調べる学習というのが最近重視されていて、国語であっても、インターネット等の情報機器を活用した学習が重要になってくると思いますけれども、この世の中、あふれる情報から必要な情報を読み出す力、つまり情報リテラシーという言葉を使っていますけれども、その内容について、各者はどのように扱われているのでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>情報リテラシーについては、各者とも取扱いされており、社会生活に必要な国語について理解し適切に使う能力を育てるよう配慮されています。</p> <p>三省堂は、各学年、情報に関わる単元が、教育出版は各学年でメディアと情報に関わる教材が取り上げられています。東京書籍は、情報の扱い方について、学びを支える言葉の力などで学ぶことができるよう配慮されています。光村図書においても、各学年で情報の活用に関する教材が取り上げられています。</p>
西中委員	<p>これからの社会というのはますます情報リテラシーというんですか、情報教育とか、あるいは情報機器の活用というのはますます重要になってくるのではないかと思います。午前中も教育委員会がありました。1人1台タブレットが夏季頃から、この教科書が使われるような段階では、恐らく子供たち一人一人にタブレットの端末が行き渡るのではないかと。そういう状況を踏まえて、教科書はどうあるべきかということになるのではないかと思います。</p> <p>教科書を見てみますと、その一つが、教科書の巻頭、一番最初のところにQRコードを持ってきて、そのQRコードにいろんなコンテンツのメニューが中に入ってあって、そのメニューの一覧から必要な場所を探り当てると、そういうやり方、これは東京書籍なんかそういうような形になっています。それから、もう一つ、光村図書は教材、例えば一つの教材がありましたら、その教材の上のところにQRコードがあって、そこにタブレットなり、あるいはスマホを当てるとそれにアクセスでき、すぐに情報が得られる、そういう2つの種類があるように思いました。子供にとってはすぐページの上であればすぐ分かる、そういう利点と、コンテンツのメニューが一覧できるというそういう利点、どちらがいいかということになると思うんですが、いずれにしてもそういうことに配慮されているというのは非常にいいんじゃないかと思います。</p>
吉村委員	<p>ちょっと話題は変わりますが、今、ゴールズのSDGsというのが非常に取り上げられているんですけれども、今回の改訂でも教科の枠を超えて、各教科で取り上げられているんですが、特に国語に関して言えば、教育出版は割と強調して扱っているように思えて、非常に内容が豊富です。逆に言えば、他教科にも関わってくるSDGsの8つの目標が今回は17に増えているため、1教科でこれだけ勉強すれば非常に時間を取ってしまいますので、強調して扱うところについては少し賛否が分かれるように思うんですが、ほかの方、どう思いますでしょうか。</p>
佐野委員	<p>私も、今の先生の意見に賛成でSDGsは社会科で本格的に扱っていますので、わざわざ国語で強調する必要がないように思います。</p>
木寄教育長	<p>これは各教科書とも構成が分かりやすくなるような工夫をしているように思うんですが、構成の仕方の特徴についてはいかがですか。</p>

西村委員	<p>特徴的なのは東京書籍だと思うんですけども、東京書籍は本編と資料編があるんですが、その間に基礎編というところが設けてありまして、例えば論理的な言葉の力を見るところでは、事実と考えを区別して述べるとか、それから、論証の説得力を見極めるであるとか、論理的に表現を身につけるといふ観点でとても詳しく基礎編のところでは触れられています。かつ、最後に巻末で基礎編のところをまとめてあったり、本編のところでは漫画仕立てで事実と考えを分けて述べるというふうなことを分かりやすい例を挙げて説明をしているという点で、とても分かりやすく取っつきやすいところから詳しい資料、情報載せているということでもとてもいいかなと思いました。これは先ほども出ていた情報リテラシーという部分にもやはりとてもつながっていくんじゃないかなというふうに思います。</p>
西中委員	<p>現行の学習指導要領で一番改訂の目玉、いわゆる主体的、対話的で深い学び、これを日々の授業にどのように実践させるかということが一番大きな課題だと思うんです。そういう意味から、私はこの光村図書の構成が非常にいいんじゃないかと思いました。單元ごとに学習目標が提示されていて、目標が示されて見通しを持って捉える、より深める、考えを持つ、振り返る、こういうふうな單元ごとにそういうものがあるので、子供たちはそういうものを追うことによって、主体的、対話的で深い学びができるんじゃないかと思います。また、先生方にとっても、それが一つの目安になって、もちろん指導書があるわけなんですけれども、教科書を見るだけでそういう学習が展開できるということで、生徒主体の学習ということでは非常に構成がいいんじゃないかとそんなふうに思いました。</p>
学校教育課長	<p>今、西中先生からご意見いただいた部分について触れさせていただきましても、東京書籍は、教材の冒頭には目標と併せて問いかけがあり、子供自身が見通しを持てるよう工夫されています。</p> <p>教育出版では、單元ごとに設定されている道しるべによって内容をつかみ、学習を進められるよう配慮されていますので、このあたりがこういう観点から見て特徴のある教科書と思われまします。</p>
西中委員	<p>もう一つ、小学校から中学校に、もちろん国語科ですから変わりはないんですが、やっぱり接続というのにも考える必要があるのではないかと思います。光村図書は小学校から中学校へと題して、音読、発表の仕方とか、あるいは学習の記録、言葉の調べ方など、中学校の国語の学習で大切なことを明確に示しています。</p> <p>また一方、先ほどありました東京書籍につきましても、巻頭で小学校で学んだことを整理して、それと対して、中学1年生で学ぶべきことを示している、これは非常に分かりやすいのではないかと思います。いずれにしても小学校から中学校への学習の流れがスムーズに移行できるような教科書が一番いいんじゃないかと思います。</p>
佐野委員	<p>私は、東京書籍と光村図書に「字のないはがき」などがありまして、平和教育の教材がとても充実しているなと思います。各社読ませていただいて、特に東京書籍は、いじめなどの人権意識の醸成を大切にしているなと感じました。</p>
西村委員	<p>国語の場合に読むこと、書くこと、それから、話すこと3つの要素があると思うんですけども、東京書籍の場合、まず、読むことの教材、例えば2年生だと短歌を楽しむ、3年生だと俳句を作って句会を開こうという、俳句の教材が入れられていて、その後には今度は自分で俳句とか短歌を作ってみよう、つまり書くことの教材が並べられていて、鑑賞して読むことで身につけた力を今度は関連した自分で書くこ</p>

	<p>とということにつながるように工夫されているのがいいと思いました。</p> <p>また、書くこと、話すことという意見を伝える場面に関しては、先ほども言いましたけれども、根拠を明確に示して論述しましょうというふうに促しているというような点もとてもいいと思いました。</p>
吉村委員	<p>学びやすいという点は、東京書籍では、基礎から発展へとつながっていく展開に関しても、資料編で文章の作者について理解が深まるようにまず工夫されていて、そしてまた、あと、言葉の力、広がる言葉で生徒の語彙がさらに増えるように工夫されているというところがいいのかなと思いました。</p> <p>また、情報リテラシーに関しても記述が分かりやすく示されていて学習しやすいのではないかなと感じました。</p>
佐野委員	<p>ほかの委員の先生方からもご意見がありましたように、国語は読んで分かるという單元だと思います。そこで、教材が良ければ、それはとてもよい影響を与えてくれると思います。その点でも、東京書籍は教科書を読めばよく分かるように工夫されております。コロナ禍の時代、子供たちが家で学習する時間も多くなってきておりますけれども、自学自習にも役立つ構成になっています。これから先、家庭学習が重要になる状況にも合致して、これがいいのではないかと思います。</p>
木寄教育長	<p>それでは、今、各委員のご意見をお伺いしていますと、東京書籍の教科用図書が採択として適切であるようですけれども、ほかに委員各位のほうからご意見はございませんか。</p>
各委員	なし
木寄教育長	<p>それでは、国語についてお諮りをいたします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校国語の教科用図書は東京書籍の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校国語の教科用図書は、東京書籍の「新しい国語」に決定いたします。</p> <p>それでは、次に、書写についての審議を行います。</p> <p>教科書の準備はよろしいですか。</p> <p>それでは、書写について、各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>次に、書写ですが、書写も4社ございまして、いわゆる硬筆、毛筆の手本というような教科書でなく、今の現代のいろんな社会に使える、4社ともすごく情報量の多い教科用図書になっているという選定委員会では意見がありました。</p> <p>その中で、東京書籍では、文字を書くためのポイント、書写の鍵を核とした課題解決型の学習課程で確かな基礎の習得と生活への活用力の育成が図られると考えます。</p> <p>次に、三省堂では、書き方を学ぼうというところで書き方のポイントを提示し、どこに気をつけて、どのように書けばよいかの時系列とともに一目で分かるよう工夫されています。</p> <p>次に、教育出版では、学習内容や手順を明確化しています。硬筆、毛筆との関連学習、文字文化への豊かな関わり、日常の書写活動への活用に必要な知識、技能を育成できるように構成されています。</p> <p>最後に、光村図書ですが、学習の進め方というところで見通しを持って主体的に学べるようになっていきます。硬筆練習帳の書写ブックが新設されていて、硬筆、毛筆の関連を図りながら確かな書く力を育む</p>

	ように構成されているのが特徴です。
木嵩教育長	それでは、各委員のご意見をお願いします。
佐野委員	私は、東京書籍で毛筆の単元で36ページと50ページにありますように、学習の要素と同じ位置に固定していて、とても子供たちにとって見やすいと感じました。
吉村委員	今、佐野委員がおっしゃっていたとおり、東京書籍や光村図書は書くことというのに割と特化しているように思えまして、教科書としては使いやすいのではないかなと思いました。 そして反対に、教育出版は割と情報量が多くて、何か見ている非常に楽しいところもあるんですが、ちょっとコンパクトという意味では少し情報量が多いのではないかなという気がしました。
西村委員	先ほどもありましたように、本当に書写というとお手本という感じじゃなくて、書写で学んだことを実際の生活で生かすことができるように工夫されているなという印象です。その中でも、東京書籍と光村図書は電子メールの書き方についても取り扱っていて、現代的な課題についてももうまく対応しているのかなという印象を受けました。
西中委員	先ほども選定委員長からお話があったんですが、私も光村図書でユニークだなと思ったのは、硬筆と毛筆の冊子を別にしてるところなんですが、硬筆は分冊にしています。硬筆のときは練習帳みたいになっているんですが、これを使ってかなりやりやすいのではないかなと思います。 それから、本体の教科書のほうですが、見開き2ページに手本がなっていて、これを手本にして書くときというのは、写したらいかんというような話もあるんですが、割合同じ大きさになっているので書きやすいのではないかなと思います。 それから、もう一つは、必ずその上にQRコードがあって、QRコードで動画を見ながらいつでも書き方について、あるいは道具の片づけ方とかそういうようなことがQRコードで適宜に調べられるところも非常にいいところじゃないかなと思いました。
吉村委員	ノートの取り方についても各社書いていますけれども、私は、特に東京書籍が分かりやすくいいのではないかなと思います。東京書籍の64ページにポップ作りという項目があります。他者でも扱ってはいるけれども、むしろ具体的な実物を示さずに強調をどういうふうにしたらいいかとかが、抽象的というか、既製品にとらわれずに解説しているのが特色として非常にいいのではないかなと感じました。
西村委員	各社とも、実生活に生かせるような題材を取り扱ってはいるけれども、東京書籍の場合、例えば77ページのところで防災訓練に参加しようということで防災訓練に参加するという場面を捉えて、例えば準備のために話し合ったことを記録するとか、調べたことをパンフレットにまとめるというような実践的な情報が載っています。そういうのは例えば高校とか大学とか、世の中に出てからも生活の様々な場面で参考にしていくことができるんじゃないかなと、その点がいいかなと思いました。
佐野委員	私も、東京書籍の28ページに文字の成り立ちと移り変わりというところがあります。文字の歴史的なところに配慮があって、資料がとても丁寧だなと思いました。40ページに産地の記載もいいなと思いました。また、24ページのように、文字の見本を上段に記載することで、左利きの生徒であっても不都合なく練習ができるよう人権的な配慮がある。これがとてもいいと思いました。
吉村委員	先ほどの国語の採択では東京書籍が選ばれましたけれども、教科書

	<p>を見ていたら、やはり同じ会社のやつはリンクしている部分が多いので、より同じ会社を使うほうが使いやすいと思いますので、書写に関しても東京書籍がいいのではないかなという考えます。いかがでしょうか。</p>
木寄教育長	<p>これまでの委員のご意見をお伺いしておりますと、東京書籍の教科用図書の採択が適切であるようでございますけれども、他にご意見はございませんか。</p>
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ご意見がございませんので、書写についてお諮りをいたします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校書写の教科用図書は東京書籍の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>ご異議なしでございますので、中学校書写の教科用図書は、東京書籍の「新しい書写」に決定いたします。</p> <p>教科書の準備はよろしいですか。</p> <p>それでは、次に、中学校の社会（地理的分野）についてのご審議をお願いします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>次に、地理ですが、地理は4社ございます。各社とも、学習指導要領の社会的事象の地理的な見方、考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質、能力の基礎を育成することを目指して構成されております。各社とも、冒頭にも申し上げましたデジタルコンテンツが非常に豊富に掲載されているのも4社とも共通な特徴です。</p> <p>各者の特徴ですが、東京書籍では、導入部、展開部、終結部の構造化した配列が構成されており、学習の流れを捉えやすいような配慮がされています。</p> <p>教育出版では、生徒の日常と関連の深い事象に関する写真、資料、コラムを掲載し、生徒の興味・関心を生かした学習が展開できるよう工夫されています。</p> <p>帝国書院は、1見開き1単位時間の授業を想定した構成となっており、見開きページの右下に習得した知識を活用して言語活動につなげる問いかけがあり、思考力、判断力、表現力等を行う、深い学びができるように工夫されています。</p> <p>日本文教出版は、どのように学ぶかを重視し、主体的、対話的で深い学びの視点で生徒自ら課題を解決する学習が実現できるように工夫されています。</p>
木寄教育長	<p>選定委員会からのご意見をお伺いしました。</p> <p>それでは、委員各位のご発言をお願いします。</p>
吉村委員	<p>各社とも、新しい指導要領を意識して巻頭で学び方を示していますけれども、例えば教育出版、巻頭に地理の学習を始めるに当たっての説明があって、何をどのように学んでいくかというのが分かりやすく示されていると思いますし、SDGsにつきましても、東京書籍の国語に比べて簡素にまとめられていて非常にいいと思います。</p> <p>日本文教出版は、巻頭の地理との出会いという項目では、地理的な見方、考え方がどのようなものかというのを日常生活に合った具体例を挙げながら示しているのが特徴的で、よいのではないかなと思いま</p>



	した。
西中委員	<p>今、吉村委員からお話がありました、特に私も日本文教出版と帝国書院の巻頭の導入の仕方というんですか、各社ともいろいろ主体的にはやっておるんでしょうが、日本文教出版さんは巻頭に地理との出会いということで、初めて地理という教科について中学1年で出会うわけなんです、そのことについて非常に分かりやすく記述されているのが特徴ではないかと思えます。</p> <p>また、帝国書院は、先ほどからも何度か出ておりますが、SDGs、これからの社会、持続可能な開発目標というようなこともその中で取り入れながら、そういう社会を目指して地理を学習、主体的にやるというような意図が非常に明確になっていて非常にいいんじゃないかなと思えました。この2者に特に注目しました。</p>
木寄教育長	<p>子供たちの興味・関心を高めるような資料の取扱いについて、ご意見のほうはありませんか。</p>
西村委員	<p>特徴的なのは東京書籍ですけども、北海道のところですが、教科書で学んだことを生かして、自然環境を生かした北海道ツアーを企画しようという活動を生徒たちにさせるという資料が載ってまして、こういう活動はとても生徒たちの興味・関心を呼ぶ工夫だなというふうに思いました。</p> <p>また、先ほどから出ている帝国書院は、何より写真や地図がとても見やすくてきれいで、そういった面で生徒の興味・関心を誘っているなというふうに思いました。</p>
佐野委員	<p>私は、東京書籍の巻頭で、エネルギー、また防災など5つのテーマで整理されて、SDGsの学習の素地をつくっています。また、資料と本文の掲載箇所がはっきりと分かれて見やすいなと感じました。</p>
木寄教育長	<p>学習指導要領解説のほうで、一部改訂によります領土に関する教育ですとか、それから、自然災害についての各者の記述なんです、これはどうなんですか。</p>
学校教育課長	<p>領土については、各社とも図や写真を掲載し、現状について適切に記述されていました。</p> <p>今、指摘のありました自然災害や防災に係る内容についても、各社とも適切に記述されていますが、特に日本文教出版が他社に比べて取扱いが多く記述されています。</p>
吉村委員	<p>ちょっと話は変わりますけれども、私は国語、書写のところでも述べましたけれども、地理と地図というのはやはり双方向でリンクしていると思えますので、こちら側も双方、地理、地図両方出している出版者のものを扱うほうが学びやすいのではないかなと思えました。</p>
西村委員	<p>両方出ているのは東京書籍と帝国書院ということですけども、帝国書院については、ちょっと先ほども言いましたけれども、写真がとても見やすいなと思えます。それから、掲載されている資料も、学校の授業で取り上げるべき内容の理解を助けるような写真やグラフなど、多くの資料が取り上げられているんじゃないかなと感じました。</p>
佐野委員	<p>私も、帝国書院は地図が整理されていて、子供たちにとって、とても理解しやすそうに思えます。同じ地図でも、帝国書院の206ページ、それから、日本文教の194ページ、東京書籍の210ページを見比べますと帝国書院の地図が見やすく、地理の理解に役に立つなと思えました。</p>
西中委員	<p>私も同じ、帝国書院の教科書を推薦するわけですけども、男女のキャラクターが随所に出てきて、適宜質問を投げかけて学習の展開を促しているというんですか、この演出が非常にいいんじゃないかと思</p>

	<p>います。</p> <p>また、各章の、あるいは節の後に振り返ろうというページを設けて、学んだことを説明したり、あるいは発展的に考えたりできるようにしているところも非常にいいように思いました。</p> <p>また、各地方の特色をまとめる中で各地方の在り方ということについて考えさせるページも設けています。</p> <p>さらに、必ずQRコードを設けて、それぞれについての解答をQRコードで用意しているところも非常にいいんじゃないかと思います。</p>
木寄教育長	<p>それでは、これまでのご意見をお伺いしていますと、帝国書院の教科用図書が採択に適切であるようですけれども、ほかにご意見等ございませんか。</p>
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ご意見がございませんので、社会（地理的分野）についてお諮りします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校地理の教科用図書は、帝国書院の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>ご異議なしでございますので、中学校社会（地理的分野）の教科用図書は、帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」に決定いたします。</p> <p>それでは、次に、中学校地図についてを審議します。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>地図ですが、地図は2社です。先ほどの地理の各委員の意見を顧みますと、地理の教科書と地図がリンクしているという意見もありましたけれども、2社とも社会的事象の地理的な考え方や見方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバルな国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質、能力の基礎を育成するというふうな、地理と同じような観点で工夫されていると考えています。</p> <p>その中で、東京書籍ですが、地理的分野だけではなく、歴史的分野、公民的分野でも活用できるよう、地図帳による学びのサポートができるよう工夫されています。ただ、地理の教科書と同じ大きさで、また厚みも一緒なので、地図帳の地図と教科書と地理の教科書と混同してしまうようなところもあるのではないかという意見もありました。</p> <p>帝国書院ですが、地理的な見方、考え方を働かせて、課題を追求するための幅広い情報が掲載されており、地図帳を活用するための方法が具体的に示されているということで、具体的な方法というのは、地図のページにその地図の場所を使って子供に問いかけがあるとか、あるいは地図のサイズが従来よりも大きくなっています。A4サイズなんです。その中に大きく地図を一つにまとめているという特徴があるというのが帝国書院の特徴です。</p>
木寄教育長	<p>それでは、まず、私のほうから聞きます。</p> <p>世界と日本の関係ですけれども、これを多面的、多角的に考えるという観点で各者の工夫について、これをご説明お願いしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>まず、東京書籍なんですけど、巻頭のほうに2ページの見開きで、先ほどから話題になっていますSDGsについて示しており、さらにその後のページで、それに関連する国際社会の様々な課題を写真や地</p>

	<p>図、グラフなどを用いて視覚化し、課題を捉えやすい内容になっています。世界全体を取り扱うページを様々なテーマ資料から世界の中の日本を捉えられるように構成されています。</p> <p>また、帝国書院のほうですけれども、今度は巻末において約 20 ページにわたり、日本について様々な視点から捉え、多面的、多角的に日本のことを考察できる内容が掲載されています。</p>
木寄教育長	<p>もう一点だけお伺いします。</p> <p>資料を活用した発展的な学習という面ではどんな工夫がされているのか、説明をお願いしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>東京書籍については、単元全体に探究課題、それを補助する探究のステップという問いを軸に単元を構造化し、見方、考え方を働かせた課題解決的な学習を通して、今回の学習指導要領にありますけれども、主体的、対話的で深い学び、これができるような工夫が見られます。</p> <p>次に、帝国書院ですが、資料図が同縮尺にまとめられ、知識や技能を習得、活用して、思考、判断、表現等をしながら課題解決する学習課程への工夫がされています。</p>
木寄教育長	<p>それでは、各委員のほうからご発言をよろしくお伺いします。</p>
吉村委員	<p>今、選定委員長のほうからも説明がありましたけれども、サイズ的な問題でいきますと、やはり帝国書院のほうサイズが大きくて、地図帳として作られているなという印象が非常に強いです。やはり私たちは地図帳は大きいほうが見やすいという考え方がありますので、どうしてもサイズ的には東書よりも帝国書院のほうが見やすいのではないかなと思います。ほかの教科書との差別化という面でもいいのではないかなと思いました。</p>
佐野委員	<p>私も、帝国書院の地図の中に、25 ページ、26 ページのようにイラストを配置されて、子供たちがすごくイメージがしやすいなと感じます。民族や文化、農作物等の分布が親しみやすく、視覚的にも分かりやすく捉えられるようになっているのがよいなと思いました。</p>
西村委員	<p>先ほどからサイズの話が出ていますけれども、やっぱり帝国書院のほうサイズが大きいので、例えば四国地方なら四国地方ということで、ちょっとの差なんですけれども、1つの画面に広範囲が表現されているので、ぱっと見てその地方の特色とか概要、これをつかみやすくなっているのかなというふうに思います。</p>
西中委員	<p>私も全く同感なんですけど、同じ地方を東書と帝国書院を比べてみますと、サイズが大きいから本当に見やすい。やっぱり地図というのは見やすいということが非常に大きな学習の利点になるんじゃないかと思います。</p> <p>それから、もう一つは、資料集としても、結構これはいろいろな資料を版が大きいから豊富にいろいろと下を使って掲載できるという利点もあると思います。</p> <p>それから、もう一つはQRコードで、動画でNHKのいろいろなプログラムの中に入れていけば、そういうところからも情報が取れ、家庭で自学自習にも使えます。そういう意味でも、帝国書院が非常にいいんじゃないかと思います。</p>
木寄教育長	<p>それでは、これまでのご意見をお伺いしていますと、帝国書院の教科用図書が採択に適切であるようですけれども、ほかにご意見等ございませんか。</p>
各委員	<p>なし。</p>
木寄教育長	<p>それでは、ご意見がございませんので、地図についてお諮りしま</p>

	<p>す。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校地図の教科用図書は、帝国書院の地図を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>ご異議なしでございますので、中学校地図の教科用図書は、帝国書院の「中学生社会科地図」に決定いたします。</p> <p>それでは、次に、中学校の社会（歴史的分野）について、ご審議お願いします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、社会（歴史）について説明をさせていただきます。</p> <p>7社ございますが、各者とも学習指導要領の社会的事象の歴史的な見方、考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質、能力の基礎を育成することを工夫して構成されております。これは社会科の大きな考え方です。</p> <p>そういった中で、各者ともに情報も非常に豊富に収められておりますが、まず、東京書籍ですが、導入部、展開部、終結部の構造化した配列で構成され、学習の流れを捉えやすい配慮がされています。</p> <p>教育出版では、1時間の学習を見通すタイトルの提示で、生徒に知りたい、考えたいという学習意欲を持たせ、主体的、対話的で深い学びを実現できる工夫がされています。</p> <p>帝国書院では、各時代の特色を捉えることができるように配慮されており、資料読み取りのポイントを示した資料活用が随所に設けられています。</p> <p>山川出版では、基本的に1つのテーマを見開き2ページとし、授業時数135時間単位時間だけで無理なく学べる定番構成になっております。もともと山川出版は、高等学校の教科書を出版されているところで、高等学校の教科書との連携をかなり意識した情報量の多い教科書となっております。公立の中学校としては、ちょっと教科書の情報量が非常に多いという印象を持っています。</p> <p>日本文教出版では、見方、考え方を働かせるための様々なコーナーを設け、新学習指導要領に対応した学習ができるような工夫がされています。</p> <p>育鵬社では、歴史上の人物に焦点化し、学習意欲を高めながら日本の歴史に対する理解を深めることができるよう工夫されています。こちらの教科書も、中学校の教科書としては情報量が多いかなというふうに考えます。それともう一つは、歴史の流れでいきますと、世界の歴史からスタートする教科書が多いんですが、育鵬社の場合は、日本の歴史からという流れが少し、子供たちにとっては逆行するのではないかなという部分もあります。</p> <p>最後に、学び舎では、歴史的内容を捉える重要事象の理解に加え、庶民や女性の生き方や文化とその担い手、世界から東アジアを見る視点等、多角的、多面的に学習する内容となっており、他者にはない特徴が見られます。しかしながら、こちらの教科書については、会社のご事情により、調査、研究用の見本本が配付されていませんので、2市1町の教科用図書選定資料作成委員会でも調査がされていないということも申し添えます。</p>
木寄教育長	説明が終わりました。

	委員各位のご意見をよろしく申し上げます。
西村委員	<p>歴史については、小学校でも取り扱っていて、小学校との接続というところが一つあると思うんです。その点からいうと、各社いろいろ工夫しておられるところが見受けられると思いますけれども、例えば帝国書院の場合は、タイムトラベルというページがあって、その右上のところに小学校で学んだ主な出来事が掲載されていて、それを確認しながらこうだったねということでスムーズに学習に入れるようになっているかなと思います。</p> <p>それから、日本文教出版では、各時代の導入の年表があって、その脚注のところで小学校で学んだ人物、文化遺産などが掲載されていて、それを再確認できるようになっています。</p> <p>それから、育鵬社は、序章、一番最初のところで小学校で学んだ歴史上の人物が似顔絵で紹介されていて、生徒たちが楽しく歴史学習を始められるように工夫されていると思いました。</p>
吉村委員	<p>1年生は、社会科は地理と歴史が並行して学習されることになっていますけれども、例えば東京書籍は他分野の公民とか地理との関連をマークで示されたり、英語や道徳などの他教科との連携もマークで示されていて、そういう教科の横断的、横のつながりというのが意識された学習が行いやすいように配慮され、カリキュラムを組み合わせやすいのではないかなと思いました。</p> <p>あと、教育出版でも、特設ページで地理、公民分野との関連を示すマークがついており、SDGsも含めてですけれども、学習の連携をしやすくする工夫がなされていると思いました。</p>
西中委員	<p>私も同感なんですけど、帝国書院、これは歴史の学習なんですけど、地理との関連が非常に多く取り入れられて、地理的な背景も考えながら歴史を見ていくと、そういう点では非常にいいのではないかなと思います。それから、もちろん地図が豊富で、色使いも非常に鮮やかなところが特徴ではないかなと思います。情報量も非常に多いというところが、子供たちが学ぶのに学びやすい、自学自習には適しているのではないかなと思います。</p>
木寄教育長	<p>私のほうから1点伺いをします。神話についての取扱いはどのようなになっているのか、よろしく申し上げます。</p>
教育部長	<p>神話のことですが、学習指導要領の歴史的分野内容の2番というところに、古代までの日本の取扱いにおける神話、伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰や物の見方などに気づかせるよう留意することというのがあります。その観点に関する質問というふうに考えますが、全ての教科書会社に生徒が学習できるような記載があります。その中で、育鵬社については、やはり内容が特に多くなっており、選定委員会の中でも、中学校の歴史の学習において必要以上の記載が多いのではないかなという意見もありましたので、併せて申し添えます。</p>
木寄教育長	<p>分かりました。 他にございませんか。</p>
佐野委員	<p>人物の記載について、各社それぞれ異なっているようではありますが、東京書籍、教育出版、帝国書院、この3社が平均的、かつ中学生の知識として身につけるべき人物が紹介されていて、生徒たちにとっては最適かなと思いました。</p>
西村委員	<p>教科書に載っている情報量という意味では、最初の選定委員長の説明にもありましたように、山川出版や育鵬社は、中学校の教科書としては情報が少し多過ぎるような感じました。やはり歴史がすごく好きな生徒さんだったらいいですけども、苦手な生徒さんからする</p>

	と、やはりあまり情報量が多過ぎるというのはかえって取っつきにくくなるんじゃないかなと思いました。
吉村委員	歴史を学んでいくに当たって、時代の流れを理解するというのが非常に大切だと思います。各社とも見開きで年表が載せられているというのは非常に学習しやすくいいと思います。その中でも、私は、帝国書院のタイムトラベルというのが各章での時代の流れをつかむのに非常に役に立つのではないかなと思いました。
西中委員	帝国書院と東京書籍、日本文教出版、まとめのページが非常にうまく構成されていて、学習したものをきちっとまとめて次の学習に行くというところの配慮は非常にいいのと学習の定着という意味でも評価できるのではないかと思います。
佐野委員	私も、まとめについて、帝国書院の208ページ、東京書籍の202ページ、日本文教出版の218ページを比較しますと、特に帝国書院のまとめがうまくまとまっていて、生徒たちにも理解がしやすいように工夫されていると思います。
西中委員	今まとめについての話が出ていますが、私も帝国書院が非常にまとめがうまく工夫されているんじゃないかと思います。3つのステップになっており、自分の考えを整理する、話し合う、それから説明するという3つのステップ、段階を踏んで歴史的な出来事を整理しており、それぞれの時代で皆そういう段階を踏んでまとめているということが非常にいいのではないかと思います。 また、日本文教出版は、巻頭に8ページを割いて、私たちの歴史という内容で小学校の歴史学習を振り返って、中学校の歴史学習に入るところが非常にいいのではないかと思います。こういう構成は主体的に学習に取り組めるという意味では非常に特色があるのではないかと思います。
西村委員	琉球とかアイヌについて、各教科書でよく取り上げるようになってきているんですが、特に帝国書院の場合は、それぞれの時代、例えば古代なら古代、弥生時代、あるいは江戸時代、あるいは近代というようにそれぞれの時代ごとに、そのとき琉球やアイヌの人々の歴史がどうなっていたのかということについて詳しく取り上げられていて、それぞれの文化あるいは周辺地域との関わりについてよく理解できるようになっているのがいい点だなと思いました。
佐野委員	子供たちにとって楽しく学習できるかという観点では、吉村委員もおっしゃっていましたが、帝国書院ではタイムトラベル、また、技能を磨くというふうなことが適宜配置されて、児童・生徒の興味・関心に応じた多様な学習ができるよう工夫されているなと感じています。
吉村委員	歴史上の災害というものについても各社とも取り上げられておりますけれども、帝国書院がコラムで取り上げていて、例えば67ページにSDGsマークもついていますけれども、このような防災意識を高めるといふ工夫が現代とつながっているのを示していて非常にいいのではないかと思います。
西中委員	私は、帝国書院の一番巻頭なんですが、歴史の捉え方、調べ方ということで、14ページにわたって年表の見方、それから歴史の調べ方というような歴史学習の進め方の基本をこの14ページで非常にうまくまとめているのではないかと思います。これを受けて、第1章の歴史学習に入ることによって非常に主体的に歴史学習を展開できるのではないかなと思うので、帝国書院が非常にいいのではないかと思います。
木寄教育長	それでは、これまでのご意見をお伺いしていますと、帝国書院の教

	<p>科用図書が採択に適切であるようですけれども、ほかにご意見等ございませんか。</p>
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ご意見がないようでございますので、社会（歴史的分野）についてお諮りします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校社会（歴史的分野）の教科用図書は、帝国書院の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>ご異議なしでございますので、中学校社会（歴史的分野）の教科用図書は、帝国書院の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」に決定いたします。</p> <p>それでは、次に、中学校社会（公民的分野）について、ご審議お願いします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、社会（公民）について説明をさせていただきます。</p> <p>6社ございますが、6社とも公民の学習指導要領に記載されている現代社会の見方、考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質、能力の基礎を育成するための工夫がされているということは共通しています。</p> <p>東京書籍では、中学生が社会参画している事例や日常生活に関する身近な話題を取り上げ、よりよい社会の形成に関わる意欲や態度を高めるような工夫がされています。</p> <p>教育出版では、学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題を置き、併せて学習課題を明示することで課題意識を明確にすることができるよう配列となっています。</p> <p>帝国書院では、学習課題で見通しを持たせ、確認しよう、説明しようで思考力、判断力、表現力等の育成と定着を図るような配慮となっています。</p> <p>日本文教出版では、見方、考え方を働かせるための様々なコーナーを設け、新学習指導要領に対応した学習ができるような工夫がされています。</p> <p>自由社では、内容が基礎的、基本的から発展的へと系統的に配列され、対立と合意、効率と公正等を具体的に取り上げ、思考力、判断力、表現力等を育てるよう工夫されています。</p> <p>育鵬社では、世の中の流れや現代の課題を多面的、多角的に考察できるような工夫がされています。</p>
木寄教育長	<p>説明が終わりました。</p> <p>委員各位のご意見をよろしくお願いいたします。</p>
西中委員	<p>公民は、民主的な社会の基礎を築くということが公民の学習の役割ではないかと思えます。そういう中で、今、選定委員長からお話がありました対立と合意、効率と公正というのは民主社会の中では非常に大事な内容なんです。これについて見てみますと各者いろいろ工夫はされているのですが、教育出版は、様々なコラムを活用しながら具体的な学習課題を設定して理解しやすいように工夫している。帝国書院のほうは、対立と合意、効率と公正の見方、考え方を各部に生かしています。現代社会の見方、考え等の基礎となる枠組みとして身につ</p>

	<p>けられるように各所に取り入れているというところが特色だと思います。</p> <p>また、日本文教出版ですが、決まりとかルールに伴う責任、あるいは変更とか評価について理解しやすいように具体的な漫画とか写真とかイラストを使って非常に分かりやすく丁寧に展開しているのが特色であるかと思います。</p>
木寄教育長	<p>私のほうは、昨今、これだけ災害が続きますと防災教育というのは大事な教育になってこようかと思えますけれども、その防災についての各社の取扱いについて説明いただきたいと思っております。よろしくをお願いします。</p>
教育部長	<p>防災については、各教科ともしっかりと記述がございます。各社に大きな差はありません。</p> <p>先ほど私が説明した中で一つ抜けておりましたので、補足させていただきますが、6社の中で、私が冒頭申し上げたQRコード等のデジタルコンテンツについて、どの教科書もあると申し上げていますが、公民の中で自由社の教科書にはデジタルコンテンツがないんです。これは今後の学習指導要領を進める中では、やや少し時代遅れかなと考えております。</p>
木寄教育長	<p>それともう一件なんですけど、地球環境問題とか、情報モラルなどの現代の社会的事象について各社の取扱いについて、説明をお願いしたいと思っております。</p>
学校教育課長	<p>今ご質問ありました現代の社会的事象の地球環境問題、資源、エネルギー問題や情報を活用する力や情報モラルについて、各社とも適切に取り扱っており、こちらにつきましても大きな差はありません。</p>
吉村委員	<p>学習のしやすさという面で見ましたら、東京書籍は各章の初めにある導入の活動という説明があり、探究のステップ、探究課題が設定されていて、見通しを立てて学習しやすいかなと感じました。</p> <p>その他の教科書でも、教育出版のほうは、各章の初めに学習の見通し、章の構成を最初に丁寧に説明し、見通しを立てて学習しやすい工夫がされているのいいところではないかなと思えました。</p> <p>また、特に日本文教出版の教科書、各編の最初に漫画があって、若い人たちが興味・関心を持って取り組みやすく、また、見通しを立てて学習しやすい工夫がされているのではないかなと思えました。</p>
西村委員	<p>公民の部分では、資料などの情報を読み取って表現活動をしていくことが大切になってくると思うんですけども、そういう点でそれぞれの教科書、それぞれ工夫されている点があると思います。見ていきますと、東京書籍ですが、各見開きのページの下のところチェックとトライというのがあって、その見開きの中で取り上げていることを抜き出して、自分の語句を使って説明しましょう、それぞれのテーマについて自分で説明しましょうという表現活動が設定されています。</p> <p>帝国書院は、また今度は違って、それぞれのテーマごとにアクティブ公民ということで、ディスカッションやロールプレーなどの手法を使って、主体的、対話的で深い学びや技能の定着を図るような活動が設定されています。</p> <p>ちょっと特徴的だったのが、日本文教出版で、シンキングツールワークというのがついていて、思考ツールは何なのかというと、例えばピラミッドチャートとかダイヤモンドランキングとか、いろんな考えるためのツール、こういうツールがありますよということが割と詳しくたくさん紹介されていて、そういったものを使って表現力、思考力</p>



	<p>を身につけていきたいと思いますというふうに工夫されているというのはすごく特徴的かなと思いました。</p>
佐野委員	<p>地理、歴史、そして公民との関係についてが、特に学びやすいように工夫されているなど思ったのは、東京書籍で、分野関連マークを活用して、地理的分野、歴史的分野の既習事項と特につながりの強い内容を関連づけて考えるように工夫されています。</p> <p>帝国書院は、見開きの左下に小学校地理、歴史を振り返るという項目があり、地理的分野、歴史的分野だけでなく、小学校の既習事項も関連づけて考えていけるように工夫されています。</p> <p>日本文教出版は、巻頭に地理、歴史とのつながりというのを設けて、公民的分野への興味・関心へとつなげています。また、見開きの左下に関連コーナーというのがあるが、主に地理や歴史の学習とのつながりを示して関連づけて考えることができるように工夫されています。</p> <p>また、教育出版では、見開きの左下に小学校他分野・他教科との関連ということがあり、いろいろな視点から関連づけて考えられるように工夫されています。</p>
西村委員	<p>公民で人権的な観点でどういったことが取り上げられているのかということがあると思うんですが、その点、日本文教出版が、教科書全般にわたって、憲法、政治、経済、国際社会の中での人権の意義や課題について考えることができるように工夫されていると思います。</p> <p>具体的に言いますと、公民プラスアルファというコラムがありまして、そこで例えばハンセン病であるとか、あるいは遺伝子情報と人権、子どもの権利条約、ビッグデータなど比較的新しい人権課題も数多く取り上げられています。こういったコラムを読むことによって、子供たちが人権課題について自分の身近なことで捉えて深く考えたり、考察したりすることができるように配慮されているのいいと思います。</p>
西中委員	<p>私も、日本文教出版が非常によくできているのではないかと思います。公民というのはこれからの社会で一市民としてどう生きるべきか、あるいはどういう社会にすべきかということが学習の大事な目標だと思うんです。そういう中で、これからの社会をどんな社会にしたいという国際社会共通の目標、いわゆるSDGs、持続可能な社会をつくるためにどうすべきかということをお題にして、1ページ、なかなか名文を掲げているわけなんですけど、公民を学ぶに当たってということでは非常にどうあるべきかということをお題で1ページに掲げておられます。これを読むだけでも非常に意味があるのではないかと思います。1、2年生で地理とか歴史を学んでくるわけで、3年で公民を学ぶわけなんですけれども、その集大成として社会に出てどうあるべきかということをお題で非常に考える意味ある導入ではないかと思います。そういう意味で、日本文教出版が非常によくできているのではないかと思います。</p>
吉村委員	<p>今、西中委員が巻頭のことを言いましたけれども、私も日本文教出版の、一番、今度は巻末なんですけど、ここで日本の人口が100人になったらどうなるかという言い方で、これは非常に実感しやすい数に置き換えて、人口、労働、医療、福祉、インターネットなんかを生活何かを示しており、これはほかの授業でも役に立つ、分かりやすい、いい手法ではないかなと思いました。</p>
木寄教育長	<p>それでは、これまでのご意見をお伺いしていると、日本文教出版の教科用図書の採択が適切であるように思われますけれども、ほかに</p>

	ご意見等ございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ないようでございますので、公民的分野についてお諮りします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校社会（公民的分野）の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校社会（公民的分野）の教科用図書は、日本文教出版の「中学社会 公民的分野」に決定いたします。</p>
	(休憩)
木寄教育長	<p>それでは、時間になりましたので、休憩前に引き続きましてご審議をお願いします。</p> <p>次に、中学校数学についての審議をお願いします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いします。</p>
教育部長	<p>数学でございます。数学は7社ございまして、各社とも学習指導要領の数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質、能力を育成することにつきましては、どの者もよく工夫されております。</p> <p>各社について説明させていただきます。</p> <p>東京書籍では、小中接続を意図した1年ゼロ章という章がございまして、日常と結びついた導入や問題発見、解決を重視した深い学びで主体的、対話的で深い学びを支援しております。特に1年ゼロ章というのはほかにはない特徴があります。</p> <p>大日本図書では、算数と数学の違いや数学を学ぶ意義について触れることができる内容や、数学の学習の仕方についてを数学の世界へようこそというところに明記されているところが特徴です。</p> <p>学校図書では、基礎的、基本的な内容の定着を図るための時間を取ることができるよう工夫され、章末に生徒の実態に応じて扱える問題を配置し、発展的に学習を進められるような工夫がされています。</p> <p>教育出版では、章ごとに既習事項の確認、節末の基本の問題、章末の学習のまとめ、章の問題、学んだことを活用しようとして配列がされ、学習効果が上がるような配慮がされています。</p> <p>啓林館では、説明しよう、話し合おう、まとめようななどの表現活動の場面が設定されており、対話的な学習を通して、思考力、判断力、表現力等を育むことができるような工夫がされています。</p> <p>数研出版では、導入から活用までQ、トライを中心にした学習動機が得られるような工夫がされています。</p> <p>最後に、日本文教出版ですが、学びのプロセスを重視した数学的活動が充実しています。ページのサイドに問題解決に必要な大切な見方、考え方を具体的に示しているところが特徴です。</p>
木寄教育長	<p>算数から数学になっていくわけなんですけれども、まず、数学を学習する際に必要となる基礎、基本の定着について、各委員のほうからご意見をいただきたいと思いますが、いかがでございますか。</p>
西中委員	<p>今、教育長が言われた算数、数学。特に算数から数学にということになるわけなんですけど、数学の概念とか、あるいは原理、法則、これを理解するためにはやっぱりその基礎となるものがきちんと定着しておらなければつまずきます。小学校で算数ができたけれども、中学校</p>

	<p>に行ったときにはどうもというところは、文字式が入ってきたり、いわゆる式、文字といったものが、全く抽象的なものが入ってくるということもあるわけです。そういうところから算数嫌いになってしまうわけで、算数、数学というのはこつこつと積み上げていくということが非常に大事だと思います。</p> <p>教科書の構成に当たっても、やっぱり学んだことを確かめて次に移るといえるんですか、どの者もそのことには留意しているわけなんです、数学嫌いを生まないためということで、一律に出す問題、それから発展的に少し考えを深めることのできる子供用の問題とか、いろいろ用意されているわけなんです、中でも日本文教出版ですが、必ず問題があったら例題を少し身の回りにあるような問題で設定されています。例えば、ここに正の数、負の数、1年生から入る新しい概念で、今までは正の数だけの世界、それが負の世界に数の世界を拡張するということなんです、ここらあたりで既につまずくわけなんです、そういうところを非常に慎重に、山の高さであるとか、あるいは灯台に進む距離であるとかと丁寧に対比しながら、必ず問題があったら例題をとということで細かく設定されています。そういうところで子供たちが確実に理解しながら次のステップに進むことができるのではないかと、そういうところが非常にいいと思います。</p>
木寄教育長	<p>数学の教科書を各社の拝見させていただいておりますと、数研出版だけ分冊なんです、こちらの点について各委員さんのほうからご意見がありましたら、お願いをしたいと思います。</p>
佐野委員	<p>分冊にするということは2部構成にするということが狙いであるように思いますが、発展ということもないようでございますので、1冊にまとまっているほうが使いやすいのではないかなと思います。</p>
吉村委員	<p>学習要綱の目標に数学的活動の楽しさ、数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うとありますけれども、数学を好きになるように各社とも工夫はされていますが、基本的には目標、例、確かめ、問い、基本の問題というサイクルを確立して学びやすくしているようで、各社ともこの辺のところは入っていますが、ほかの委員さん、どうでしょうか。</p>
西村委員	<p>そうですね。それぞれの章とかで何を学ぶのかというのがはっきりしているほうが、子供たちが入っていきやすいと思うんですけれども、そういう意味では東京書籍の場合は、一番最初のところにQという設定があって、考えてみましょうということで何について考えていくのかということが示されています。数研出版、日本文教出版でも、それぞれの節や章の初めに目当てということで、何をこの章で学習していくのかという目標を明確にする工夫はされていると思います。</p>
西中委員	<p>国際的な調査でも、数学の有用性というんですか、数学とは一体何のために学ぶのか、入試のためではないでしょうけれども、やっぱり身近に数学が活用されています。いわゆる数学の有用性、これについても世界的な調査では日本の子供というのは非常に低いわけです。数学が有用である、身近に感じるという調査で非常に低いという結果が出ておるわけで、そういう意味からも数学のよさというんですか、それを実感させることが数学を学ぶモチベーションを高めるということにつながるんじゃないかと思います。啓林館は、例えばデータの活用ということで、気温が高くなってきているということで気温ということに絞って、これによってデータが統計的な手法のいろいろ、偏差値であるとかそういうようなことについて学習するようにしています。</p>

	<p>が、こういう身近なものから、どこの者もやっているわけなんです、とりわけこういうところに留意している。</p> <p>それから、日本文教出版では、1、2年生のデータの活用というところは徹底して気象に絞っているわけです。特に統計と確率です。確率なんかでもお天気というところに絞って、子供の身近なものから1年生で天気で統計をやって、さらに2年生で確率というような形で、同じ素材で学習するというところが非常によく、概念形成に非常に役立つのではないかと思います。</p>
木寄教育長	<p>ちょっと見方を変えていただいて、ほかの観点でいかがでございますか。</p>
西村委員	<p>それぞれの章で学んだことをどう定着させるか、あるいは数学の得意なお子さんはもっと難しい問題にチャレンジしてみたいというようなところがあると思うんですが、そういう意味では、まず啓林館は、それぞれ各学年で方向が違いますが、後ろから自学自習のためのページというのがかなりたくさん用意されています。これはとてもいいなと思います。</p> <p>一方、日本文教出版の場合は、そういうふうに合わせてページが設定されているんじゃないんですけれども、各章の最後に必ず基本の問題、それから、その章の問題、それから、さらに取り組んでみようという難しい問題、レベルの高い問題を持ってきているというところが特徴かなと思いました。</p>
佐野委員	<p>数学の授業でも、新しい指導要領の深い学びというのがあるわけですが、生徒が話し合ったりする言語活動がとても大切のように思います。この点について考えてみますと、啓林館と日本文教出版がいいと思います。啓林館は、章に1回程度、説明しよう、話し合おうという項目があり、そこを終末にまとめようというふうにつながられています。</p> <p>また、日本文教出版は、2章に1回程度、59ページのように、学び合おう、また巻末の対話シートを利用して言語活動が円滑に進められるよう工夫されています。終末の61ページのように、説明できるかなというふうなところにつながられているところがいいなと思います。</p>
吉村委員	<p>特に日本文教出版の教科書は導入の工夫が非常によくできていますし、各章のまとめとして、出ている問題の設定がやはり生徒たちが間違いやすく、議論になりやすいところを選んで設定されていると思いますので、この辺も導入と復習という面ではよい工夫だと思います。</p>
西中委員	<p>先ほどもちょっと申し上げたんですけれども、数学の概念というのは、算数から数学へということ、具体から抽象ということ、非常に抽象化された概念で分かりにくい。そういう意味では、小学校と中学校の接続というんですか、特に1年生の教科書は、私は大事ではないかと思えます。そういう意味でいえば、この日本文教出版が徹底してそれに徹しています。まず、最初に算数の確かめがあって、各章、7章あるのですが、この7章の各章の前に小学校で学んだ、次の章を学ぶ前にという項目を設定して、1ページ取って小学校のおさらいをしている。これは非常に他の教科書にはちょっとない内容で、小学校との結びつきということで、子供たちは小学校で学習したことの学習内容をきちんと整理し、定着した上で、中学校の学習に入ること、7章にわたって徹底してレディーズというんですか、その前提となるレディーズの整理をしながら次へ進むところが非常に日本文教出版がいいのではないかと思います。</p>

木寄教育長	<p>それでは、これまでの各委員のご意見をお伺いしておりますと、日本文教出版の教科用図書の採択が適切であると思われましても、ほかにご意見等ございませんか。</p>
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ないようでございますので、数学についてお諮りします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校数学の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することについてご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校数学の教科用図書は、日本文教出版の「中学数学」に決定いたします。</p> <p>それでは、次に、中学校理科について審議をお願いいたします。各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。</p>
教育部長	<p>理科ですが、理科は5社です。5社とも、学習指導要領の自然の事物、現象に関わり、理科の見方、考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物、現象を科学的に探究するために必要な資質、能力を育成することについて工夫がされております。</p> <p>東京書籍では、生徒主役の主体的、対話的で深い学びの可視化やICTを活用したつまずき対応など、様々な子供が探究できるような工夫がされています。教科書のサイズも大きな特徴となっています。</p> <p>大日本図書では、技能定着を図るウェブコンテンツが充実しており、深い学びを実現できるよう、構成に配慮がされています。</p> <p>学校図書では、学習指導要領の理念が分かり、実践できる内容になっています。教員と生徒、両者の負担軽減に配慮がされています。</p> <p>教育出版では、小・中のギャップが生じないように、学習の仕方、内容、デザイン、紙面のレイアウトなどに工夫がされています。</p> <p>最後に、啓林館ですが、理科好きになる紙面の体裁や主体的に探究する場面を設定しています。</p>
木寄教育長	<p>まず、私のほうから教えていただきたいんですが、学習指導要領にあります科学技術と日常生活や社会の関連についてということですが、そういう記載について、各社の特徴というものがありましたら、よろしくをお願いします。</p>
教育部長	<p>東京書籍では、つながる科学というコラムを設けて、科学の歴史を漫画で示したり、学習内容が現在の社会に応用、利用されているものを取り上げたりしています。</p> <p>大日本図書では、暮らしの中の理科のコラムが表記されており、科学が実社会でどのように利用されているか、学習内容に関係するものが掲載されています。</p> <p>学校図書では、様々なところで実社会で用いられている科学技術、様々な生物などが写真で示され、学習内容との関係性などが説明されています。</p> <p>教育出版では、ハローサイエンスのコラムの中で、実社会とつながる科学が示されていることで、自分たちの未来へのつながりを意識させています。</p> <p>啓林館は、巻末の広がる世界でというところで、科学が実社会とどのように関係しているかを分かるようになっています。</p>
木寄教育長	<p>理科を学習する上で、観察とか実験が非常に重要ではないかと考え</p>

	ていますけれども、この点について各委員さんのほうからご意見があればお願いします。
吉村委員	各社とも器具の説明や手順なんかのページにはQRコードが載っていて、それぞれのアクセスサイトへ行くと、動画であるとか写真とかで分かりやすく解説できるようになっているんですけども、当市もタブレットを利用した学習という面でも、各社とも使いやすいのではないかなと思いました。
佐野委員	東京書籍は、104ページ、105ページを見ますと、実験の学習内容の直前に予想しようというのがあります。また、参考する内容とともに書かれており、実験の結果は次のページで扱うというふうになっています。 また、啓林館では、実験前に予想と仮説を立てて行うように示していて、実験だけでなく、話し合い活動のモデルを探究クラブとして示しています。視覚的なモデルなどを用いて理解しやすいように工夫されているのいいと思います。
西村委員	今話が出たんですが、東京書籍のほうは、人物のイラストとか、キャラクターとかが出てきて、漫画のせりふのような吹き出しで、いろいろこのことはどうなのかなとか問いかけをしながら興味を引いて、投げかけをして、深い学びに導いていくというような特徴があると思います。 それから、啓林館のほうは、それぞれの単元の初めに、この単元ではこういうことを学習していこうという発問をして、その後、学習が繋がっていくわけですけども、最後のまとめのところに力試しというのがあって、その問題が思考の深化という判定問題があり、そこで学習内容をさらに深めて、こういうことについて考えてみようというように学習意欲が上がるように工夫がされているように思います。
吉村委員	特に啓林館の教科書は非常に目につく構成で、各章の最初に見開きで大きな関連のある写真がぱっと載っていて非常に興味を引き、アイデアとしては非常にいいと思います。子供たちを引きつける力があるのではないかなという感じがしました。 それとあと、2年の電流のところでは四日市のコンビナートの夜景が載っていて、ぜひ泉北コンビナートにしていきたいと思います。余談ですけども。
西中委員	理科の学習というのは自然現象、自然の現象というか事物、それを実験とか観察を通して理科的な考え方、探究心を培うというようなことになっているわけで、ほとんどの理科の学習の大半は観察、実験と言っても過言ではないわけで、学習指導要領でもこれを修めるようになっているわけなんですけれども、そういう意味では、啓林館の迫力のあるカラー写真ですか、非常に見開きにすると迫力のある鮮やかな写真やカットということで、生徒の学習へのモチベーション、これを見るだけで観察をしたいな、実験をしたいなということになるのではないかなと思います。版も変わっているんですかね、よそと。版が違うんですかね。東京書籍と一緒にですか。東京書籍と啓林館がちょっと版が違うんですか。
学校教育課長	東京書籍は縦長です。
西中委員	それから、もう一つは、観察、実験のステップ、きちっとステップを踏んで、ステップワン、ステップツー、ステップスリーというような形で綿密にステップを踏みながら、観察なり、あるいは実験を進めているという、そういう仮説、計画、それから実験後の検証、そういうステップが非常にきちんと踏まれているというところもいいのでは

	ないかと思えます。
木寄教育長	それでは、これまでの各委員のご意見をお伺いしておりますと、啓林館の教科用図書の採択が適切であるようでございますけれども、ほかにご意見のほうはございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	それでは、理科についてお諮りをいたします。 ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校理科の教科用図書は、新興出版啓林館の教科用図書を採択することについてご異議ございませんか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	異議なしということでございますので、中学校理科の教科用図書は、新興出版社啓林館の「未来へ広がるサイエンス」に決定いたします。 それでは、続きまして、中学校音楽（一般）についてご審議をお願いいたします。 各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。
教育部長	それでは音楽ですが、音楽の一般ということで2社ございます。 2社ともに、学習指導要領の表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質、能力を育成する内容が取り扱われております。 教育出版では、学びのユニットが特徴で、主体的、そして協同的に学べる教材配列と学習内容の関連を図り、カリキュラムマネジメントの展開が容易にできるようになっています。 教育芸術社は、3つの資質、能力と各教材との関連を図示化しており、目次の次のページに年間指導計画を立てる際に参考となる学びの地図を掲載しております。深めよう音楽を適宜掲載し、具体的な学習の手だてを示しています。また、音楽の学習と社会とのつながりを考える場面が充実しています。 音楽の場合も2者ですので、選定委員会が出た意見については、学校教育課長のほうから説明させていただきます。
学校教育課長	音楽（一般）の教科書は2社ということで、選定委員会においては学習指導要領にのっとった構成で使いやすく、また、音楽づくり等についても分かりやすく示されており、音楽が難しいと感じる生徒にも取り組みやすくなっているということから、教育芸術社の教科書がふさわしいのではないかとこの意見となっております。
西中委員	私は、音楽が好きなのですが、中学生のときに声変わりということで経験しています。中学生も変声期に当たるわけで、自分の声の適切な声域であるとか声量というんですか、どのところまで自分の声が、音が出るのかというようなことを自分で知ることが非常に大事だと思うんです。そういう意味で、教育芸術社の21ページで、2ページを割いてきちんとマイボイスということで、変声期に歌声はどうなるのかというようなことで、非常に懇切丁寧に変声期に心がけること等を書いておられるわけなんです。そういう意味で、自分の発声について考える配慮をされて、自信を持って変声期を迎えられるというんですか、自分の声はこの辺までの音域を出せるんだと、あるいは声量はこのくらいまでなんだ、無理しなくていいんだというようなこと、このマイボイスによって非常に点検できるわけで、そういう意味では非常にいいのではないかと思います。

佐野委員	音楽は、学習を通して、音楽を楽しむことができる、生涯にわたって音楽を愛好する、そういう資質を養うことが大事だと思っております。その点でも、教育芸術社は深めよう音楽、表現を創意工夫する等、音楽を楽しむ場が設けられており、音楽を愛好する心情を育むことに役立つと思っております。
吉村委員	学校教育課長からもありましたように、音楽づくりなど同じ題材について、高等学校と違って選択式がありませんので、全員が学ぶという点では、教育芸術社のほうが取り扱いやすく記載されているのではないかなと思えました。
木寄教育長	これまでの各委員のご意見をお伺いしておりますと、選定委員会の答申どおり、教育芸術社の教科用図書の採択が適切であるように思われますけれども、ほかにご意見はございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	それでは、ないようでございますので、音楽（一般）についてお諮りいたします。 ただいまのご質疑、報告を踏まえまして、中学校音楽（一般）の教科用図書は、教育芸術社の教科用図書を採択することについてご異議ございませんか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	異議なしということでございますので、中学校音楽（一般）の教科用図書は、教育芸術社の「中学生の音楽」に決定いたします。 それでは、続きまして、中学音楽（器楽）についてのご審議をお願いいたします。 各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。
教育部長	音楽の器楽については、教科用図書は音楽（一般）と同じで2社となっております。学習指導要領の内容についても、両者扱われております。 そういった中で選定委員会では、発達段階に応じて活用できるようなアルトリコーダー、ソプラノリコーダーどちらもが取り扱う等の工夫や、キャラクターの発言で子供たち自身が自ら調べたり、深めたりできるようになっていることなどから、教育芸術社の教科書がふさわしいとの意見となっておりますのでよろしくお願いいたします。
佐野委員	先ほどの音楽（一般）の教科書の際にもありましたけれども、音楽は、特に器楽は段階を踏んで進んでいけるような構成になっていて、音楽が得意でない生徒も取り扱いやすいように工夫されているという点では、教育芸術社がとてもしっかりと思えます。
西村委員	教育芸術社なんですけれども、17ページのところでアルトリコーダーの楽器の手入れについても取り上げているんですね。やっぱり楽器を丁寧に大切に扱っていくということもとても大事なことなので、こういう記述があるというのはとてもいいことだと思います。
西中委員	この教育芸術社なんですが、特に私は日本の和楽器について、40ページから69ページまで29ページにわたって、琴、三味線、それから和太鼓、篠笛まで、尺八、いろんなものを取り上げて、日本の伝統的な和楽器のよさというんですか、あるいはその演奏の仕方等取り上げて、そういう日本の伝統文化に触れるという意味でも非常にいいのではないかと思います。
木寄教育長	それでは、これまでの委員のご意見等お伺いしておりますと、教育芸術社の教科用図書の採択が適切ではないかと思われますけれども、ご意見はございませんか。



各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、音楽（器楽）についてお諮りいたします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校音楽（器楽）の教科用図書は、教育芸術社の教科用図書を採択することについてご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校音楽（器楽）の教科用図書は、教育芸術社の「中学生の器楽」に決定いたします。</p> <p>続きまして、中学校美術についての審議をお願いいたします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。</p>
教育部長	<p>それでは、美術ですが、美術は3社でございまして、各社ともに学習指導要領の表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質、能力を育成するという、この考え方に工夫がされております。</p> <p>開隆堂につきましては、創造性、国際性、郷土愛を育むことができるようになっており、分野の初めに学習内容や方向を示し、主体的に学習する態度を育むことができるよう工夫されています。</p> <p>光村図書は、授業の流れを明示し、発想、構想の手だてを掲載されています。主体的な学びを促す紙面構成というふうになっています。</p> <p>日本文教出版は、生徒の発達段階に応じた3構成となっており、発想、構想の手だてが豊富に掲載されており、鑑賞題材が充実しております。また、学びの目標で目標と評価の一体化を図っています。</p> <p>ここも3社ですが、選定委員会のほうでは選定委員全員が、特に掲載作品の見せ方について日本文教出版の教科書が他者に比べたら優れており、こちらがやはり子供たちにとっては使いやすい、あるいは使わせたい、そういう意見が出ましたので、併せて添えさせていただきます。</p>
吉村委員	<p>題材ページに設定されている造形的な視点を見てみますと、その題材の中心的な発問がそこに込められていて、生徒が自主的に考え、思考を深めたり、主体的にこれはどうなんだろうと自分で学ぶ姿勢につながっていているのではないかなという気が、特に日本文教出版のほうではしました。</p>
西中委員	<p>楽器のところでも申し上げたんですけれども、やっぱり日本の伝統的な文化のよさというんですか、日本文教出版の各学年にわたって、日本の美術の各時代の作品の特質とか、あるいは地域の祭りの造形なども取り上げておられます。また、2年生、3年生では、浮世絵とか、あるいはジャポニズムということで日本の伝統的な芸術のよさというんですか、そういうものをまとめて取り扱っているということ、また、さらにQRコード、これは何度も出てきておりますが、このQRコードで動画で美術の世界に入ることができる、これも非常にいいのではないかと思います。</p>
佐野委員	<p>私も日本文教出版は生徒の作品をたくさん取り上げていて、生徒が作品を作るときに身近でとても参考になると思いました。</p>
西村委員	<p>私も日本文教出版なんですけど、ユニバーサルデザインといいますか、使う人の立場で考えるデザインといったことを取り上げていることに加えて、目隠しをして作った彫刻とか、あるいは作品に触れることができる美術館なども紹介されていて、障害者理解などの補充的、反転的な学習につながる工夫も見られるんじゃないかと思います。</p>
木寄教育長	<p>これまでの各委員のご意見をお伺いしておりますと、日本文教出版</p>

	の教科用図書の採択が適切であるのではないかとと思われますけれども、ご意見はございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ないようでございますので、美術についてお諮りいたします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校美術の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校美術の教科用図書は、日本文教出版の「美術」に決定いたします。</p> <p>それでは、続きまして、中学校保健体育についての審議をお願いいたします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。</p>
教育部長	<p>それでは、保健体育ですが、4社ございます。各社とも、学習指導要領の体育や保健の見方、考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持、増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力を育成することについて工夫が見られます。</p> <p>まず、東京書籍ですが、質の高いデジタルコンテンツが備わっており、主体的、対話的で深い学びの学習形態がスムーズに進むよう、授業の流れを分かりやすく紙面化しています。</p> <p>大日本図書は、生涯にわたって心身の健康を保持、増進し、豊かなスポーツライフを実現するために学習したことを生かすことのできる生きた学びを目指しています。</p> <p>大修館書店は、学習項目を1見開き1単位時間で構成しています。本文と資料を区分するデザインで、学習内容の要素がよく分かるようになっています。</p> <p>学研教育みらいでは、1時間のつかむ、考える、調べる、まとめる、深めるの流れで構成されており、課題解決的な学習を通して、見方、考え方を働かせることができるような工夫がされています。</p>
吉村委員	<p>今インクルーシブ教育を実践していく上で、やはりスポーツを通じて身につけてほしい、例えば公正に取り組むであるとか、互いに協力するとか、自己の責任を果たす、一緒に参加する、また、一人一人の違いを大切にするとというようなことに注目して見ますと、各者とも、民族や国、障害の有無などの違いを超えて、スポーツがつなげてくれるということを示してございまして、その中では、学研教育みらいがスポーツの多様性を第1章で伝えて、多彩な楽しみ方について考えさせ、生涯にわたって豊かなスポーツライフというものの実現について考えさせる場面を設けているのが非常にいいなと思えました。</p> <p>それともう一点、小学校の保健体育でも話題になりました生活習慣病です。やはり中学の教科書は、一步踏み込んで、どういう悪影響を出すという結末について割と詳しく書いています。こういうのは大人になって、健診で自分が言われたときに早くから怖さを学んでおくというのが非常にいいと思います。実際に大人になってから健診で悪かったら、しょうがないなで済みますのが、こういうことを知っていればどきっとして改善につながると思いますので、もうちょっと怖がらせて書いてもいいのではないかとこの気はします。</p>
木寄教育長	性的マイノリティーについてなんですけれども、学研教育みらいの

	教科書がLGBTという言葉が掲載されておられるんですが、この点について、各委員さんからご意見をいただければと思っております。
西中委員	これは前年度の小学校の採択の際にも問題になりまして、いわゆる性的マイノリティー、とりわけLGBTという用語ですね。そういうものを小学校の段階で教えるべきかどうかということで、時期がいつそ早いのではないかとということで取りやめというんですか、申し送りをしたというふうなことを覚えているわけなんです。私は中学校の段階では、これは教えるべき内容ではないかと思えます。特に保健体育分野で中学校の指導要領にも、思春期においては自己の認識が深まり、自己形成がなされることということで心身の発達と心の健康について学習するとき、学研教育みらいですか、2ページを取って、いわゆるLGBTなどの性的マイノリティーに関するということで虹色ダイバーシティの代表の村木真紀さんのコメントなんかも出ておまして、やっぱりこのことについて、いろんな性について考えを持つ、あるいはそういう人たちがおるのだと、同じ仲間なんだというようなことをやっぱりここで分からせるといいますか、気づかせるというのか、そういうことを考えさせる一つの非常に大事なことだと思います。
西村委員	今、学研教育みらいの話が続いているんですけども、理解のしやすさ、分かりやすさという点から見ても、学研教育みらいは、図であるとか挿絵だとかの資料も適切にたくさん取り上げられていて分かりやすく丁寧に、中学生の発達段階に応じて理解しやすい記述になっているのではないかなと思います。
佐野委員	私も西村先生の意見に賛成で、生徒の主体的な学習の実現には各社とも配慮しておられますけれども、特に学研教育みらいが徹底しているようだと思います。どの章、どの節でも目標を設定して、生徒に課題をつかませてから考える、調べる、まとめる、深めるという段階を踏んで学習を進めるようにしているところがいいように思います。
木寄教育長	これまでの各委員のご意見をお伺いしておりますと、学研教育みらいの教科用図書の採択が適切であると思われまますけれども、ほかにご意見はございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	それでは、ないようでございますので、保健体育についてお諮りいたします。 ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校保健体育の教科用図書は、学研教育みらいの教科用図書を採択することについてご異議ございませんか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	異議なしということでございますので、中学校保健体育の教科用図書は、学研教育みらいの「中学保健体育」に決定いたします。 それでは、続きまして、中学校の技術家庭（技術分野）についてのご審議をお願いいたします。 各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。
教育部長	それでは、技術家庭科の技術分野ですが、3社ございます。3社とも学習指導要領の技術の見方、考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的、体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質、能力を育成することについて工夫がされております。 まず、東京書籍ですが、各章が生活や社会を支える技術、技術によ

	<p>る問題の解決、社会の発展と技術の3要素で構成され、体系的に学習が進められる配列になっています。</p> <p>次に、教育図書ですが、生徒自らが実習で用いる技能、技術等が別冊のハンドブックにまとめられていることが大きな特徴になっています。個々の興味、関心に応じた学習が展開できるようになっており、別冊に非常に詳しい解説があります。</p> <p>最後に、開隆堂ですが、生徒の生活経験や既習事項との関連が図られており、発達段階を踏まえ、技術の見方、考え方や関心を喚起し、活用するまでの過程をスムーズに学習できるよう配列がされています。</p>
西村委員	<p>今、関連という話があったんですけども、技術という教科に入っていくに際して、東京書籍と開隆堂では、小学校との関連について小学校マーク、それから、他教科との関連について他教科の関連マークというのを本文の中につけていまして、小学校からのつながり、あるいは他教科との関連ということが分かりやすく示されていると思います。</p>
西中委員	<p>技術家庭なんですけれども、これからの社会というものはいろいろ情報、デジタル化ということで社会の情報をいかに取り入れて生かしていくかと、そういうことが非常に大事になってくると思うんです。そういう意味で、教育図書が83ページにわたって、情報について割いておられるわけです。また一方、開隆堂は93ページですか、ページ数でどうこう言うわけやないんですけども、非常に内容的に情報技術ということに非常に力をいれておられるように思います。</p> <p>また、教育図書は、二足ロボットの作成であるとか、あるいは災害用のバッテリーチャージの作成とか、そういう具体的なものづくりについてもやっておられるのが非常に興味があるなと思いました。</p> <p>また、開隆堂さんのほうがサイバーセキュリティーの問題とか、著作権の問題とかそういう問題についてもかなり詳しく触れておられるようで、93ページ、中身のある情報の構成だと思って、これは非常に今後大事だなというふうに感じました。</p>
吉村委員	<p>技術家庭でも、主体的で対話的で深い学びというのが必要と思うんですけども、この分野についても各社とも主体的に調べたり、友達と共同して検討したりするための発問を設けるなど、深い学びの実現のために各者とも工夫されていていいのではないかなと思います。</p>
佐野委員	<p>私も、主体的に学ぶという観点では、技術の分野でも単に技術について理解し習得するということだけではなくて、生活、また社会の中から問題を見だし、そして、課題の設定、解決策の構想などの問題解決学習の過程を踏むことがとても大事であると思います。そういう点では、教育図書は導入、また図、本文等のレイアウトを固定するなど、支援が必要な生徒が学習しやすいように配慮されていると思います。</p> <p>そして、開隆堂は、巻頭の学習の流れで技術分野の学習の流れを理解させ、その後のガイダンスで生活や社会における技術の役割について理解させた後に、問題解決の学習形態を徹底して進めているというのがよいと思います。</p>
吉村委員	<p>写真やイラストに関してですけども、やはりこれは開隆堂が特に見やすいのではないかなという印象がありました。特に自分自身が作業しているようなアングルで撮影されていて、のこぎりの引き方であるとか、かんなのかけ方であるとか、非常に分かりやすい写真が掲載されていて非常にいいと思いました。</p>

佐野委員	私も、開隆堂は全体的によくまとまって使いやすい教科書になっていると思います。
木寄教育長	それでは、これまでの各委員のご意見をまとめますと、開隆堂の教科用図書の採択が適切であるように思われますけれども、そのほかご意見等ございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	それでは、ないようでございますので、技術家庭（技術分野）についてお諮りいたします。 ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校技術家庭（技術分野）の教科用図書は、開隆堂の教科用図書を採択することについてご異議ございませんか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	異議なしということでございますので、中学校技術家庭（技術分野）の教科用図書は、開隆堂の「技術家庭 技術分野」に決定いたします。 それでは、続きまして、中学校技術家庭（家庭分野）についてのご審議をお願いいたします。 各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。
教育部長	技術家庭の家庭分野についても、技術分野と同じように3社ございまして、3社とも学習指導要領の生活の営みに係る見方、考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し、創造する資質、能力を育成することについて工夫がされております。 東京書籍では、ビジュアルで実感を伴う実物大の写真や折り込み等の資料が充実しており、巻末の防災・減災手帳も斬新なものとなっています。 教育図書は、中学生の視点を大切に、導入時に自立度チェックを掲載し、学びへの興味・関心を高めながら、主体的に学習に取り組めるよう工夫がされています。 開隆堂は、基本的に見開きで学習内容をまとめることで本時の学習目標や学習活動が一覧でき、見通しを持って学習に取り組むことができる配列になっています。
西中委員	家庭学習、これは主体的に学ぶという点で見ているわけなんです、東京書籍は、家族の関わりとか、立場を変えているいろいろ考えるというのが、ロールプレイングを楽しみながら実践的に体験的に学習できるようにしているんじゃないかと思います。 それから、教育図書ですが、最初の見つめるで課題を提示して、生徒が各自考えを持って主体的に授業に取り組める工夫、また、開隆堂は、ここは徹底しているんですが、学習の初めにガイダンスとして、主体的、対話的、深い学びをしようという、こういうそのもの見出しで、家庭については主体的、対話的、深い学びをするんですよということがこの内容から分かるわけなんです。また、適宜QRコードを用いて、動画によって理解を深めているのも非常にいいんじゃないかと思います。
吉村委員	教育図書は、イラストや写真とか図が多くて、中学生が効果的に楽しく学習できる工夫はされていると思います。また、幼児のところでは子供の手形が載っていたり、食品の原寸大の写真とか、面白いのは料理の失敗例を掲載するなど、見ていて納得できるような工夫もされていていいと思います。

	ただ、少し他者に比べまして教科書が分厚くて重たいという点は少し気になりました。
佐野委員	私も吉村先生の意見と一緒に、教育図書は見ていて楽しい構成にはなっているんですけども、ただ教科書として使いやすいかどうかについては考えられる部分があるかなと思います。
西村委員	その点では、先ほど技術のときにも話がありましたけれども、開隆堂さんは写真がとても分かりやすく、例えばいろんな器具の部分では拡大写真やイラストが添えられていてとても分かりやすくなっていると思います。特に調理の手順については全て写真で示されているので、生徒が状態を見ながら作業を進められるというところがいいと思います。構成についても教科書らしい、授業で使うとしたら使いやすいんじゃないかなと思います。
吉村委員	さらに開隆堂は、防災についても、292ページみたいに本文以外でも特設ページを設けていまして、日常的な備えの重要性などについても述べられていますし、また、防災関連の実習であるとか、防災グッズの製作例も取り上げられていて、防災に関する事項に関しては各章で防災マークがついてあるなど、防災については非常にページが充実しているのではないかなと思いました。
木寄教育長	それでは、これまで各委員のご意見をお伺いしておりますと、開隆堂の教科用図書の採択が適切であるように思えますけれども、ほかにご意見等ございませんか。
各委員	なし。
木寄教育長	それでは、ないようでございますので、技術家庭（家庭分野）についてお諮りいたします。 ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校技術家庭（家庭分野）の教科用図書は、開隆堂の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。
各委員	異議なし。
木寄教育長	異議なしということでございますので、中学校技術家庭（家庭分野）の教科用図書は、開隆堂の「技術家庭（家庭分野）」に決定いたします。 それでは、続きまして、中学校外国語（英語）についてのご審議をお願いいたします。 各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。
教育部長	それでは、外国語についてです。6社ございまして、6社とも学習指導要領の外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質、能力を育成することが工夫されております。 東京書籍は、ユニットでは4技能5領域を活用し、文法の学習、ステージアクティビティーでは自己表現、レッツでは実践的なコミュニケーション能力を伸ばす狙いでまとまりを持った構成となっております。 開隆堂は、4技能5領域がプログラムごとにバランスよく配列されており、コミュニケーションを図る資質、能力を育成できるよう工夫されております。 三省堂では、各レッスンで段階的に4技能5領域を学ぶ内容となっております。三省堂では、各レッスンで段階的に4技能5領域を学ぶ内容とな

	<p>っています。</p> <p>教育出版は、小学校での学びを生かしつつ、確かな力を育むレッスン構成で基礎、基本を定着させ、即興で話す力を含めた表現力を伸ばすことができるよう工夫されています。</p> <p>光村図書は、各ユニットのパート後に、4技能5領域をバランスよく配列した言語活動が設定されていて、ストーリーとリアルな教材で確かな学力と実践的な英語力を育成できるよう工夫されています。</p> <p>最後に、啓林館は、巻末のCanDoリストを通して、生徒自ら学習を振り返り、何ができるようになったかをつかむことが可能となっています。また、生徒の興味・関心を高める題材が豊富です。</p>
西中委員	<p>今回、英語なんですけど、今まで小学校では英語が教科ではなかったわけで、今回初めて、小学校で英語を教科として位置づけて、その延長線上に中学校の英語というものがあるわけで、特に本市の場合、教育課程の特例を受けて小学校の1年生から英語をやっております。それを受けて、小学校からの学習の継続ということで各社ともそういうことは配慮しておられるわけなんですけど、特に開隆堂さんは1年から3年にかけて、身の回りの出来事から世界的な取組まで内容を徐々に広げて、身の回りから世界的な分野にということで偏りなく学ぶことができるようにしているのが非常に特徴だと思います。</p> <p>また、光村図書ですが、鳥獣戯画であるとか、あるいはスーホの白い馬等、小学校で扱っていた内容が掲載されているのは非常に小学校とのつながりということで面白いのではないかと思います。</p> <p>また、東京書籍ですが、エンジョイ コミュニケーションということで、小学校で習った単語を基にいろいろな問題を解き、復習をするというページを設けています。これもやっぱり中学校と小学校とのつながりということを大事にした構成になっているので非常にいい構成ではないかと思います。</p>
木寄教育長	<p>これからの日本はますます国際化が進んでいくと思われまので、実際に子供たちが社会に出て使える英語を身につけなくてはならないと思っております。こういった学習内容を身につけさせるということが本当に重要だと私は思っておりますけれども、この点について特に工夫されているというものがありませんでしたら、お聞きしたいと思っております。</p>
学校教育課長	<p>各社工夫はそれぞれされていますけれども、特にということでございますので、3社挙げさせていただきますと、まず、東京書籍になりますが、東京書籍では、各ユニットの「Speak&amp;Write」や「レッツトーク」で、ペアワークやグループワークの活動が用意されておりまして、既習事項の活用ができるようにしやすくなっています。</p> <p>2つ目としましては、開隆堂です。新出表現が会話形式で書かれており、実生活に使用する場面が浮かびやすく、実際に使われる場面を想定しながら話すことで定着していくようになっています。</p> <p>3つ目としましては、光村図書を挙げさせていただきますが、「Story Retelling」で既習内容の絵や写真を使って、相手に自分のことを伝える練習ができるようになっておりまして、You Can Do It では、英語を活用できる場面が設定されています。</p>
吉村委員	<p>英語力を身につけるには繰り返し学習が非常に大切だと思います。書くことであっても、聞くことであっても、繰り返して学習して身につけるといのが基本だと思いますので、最近の全教科にも共通することですけれども、教育出版、三省堂、開隆堂は、QRコードで音声、動画などがウェブコンテンツで利用できて、家庭で繰り返し学習するの</p>

	<p>には非常にいいと思います。光村図書は、学習の順序が示されていて、それに従ってQRコードを読むことで音声、動画などの資料を関連して読み取ることができるというふうな工夫があって、やはり関連学習が非常に自主的に勉強するには使いやすいであろうと思われま</p> <p>す。</p> <p>東京書籍も同じようにQRコードはあるんですけども、プラスアルファでデジタルコンテンツというのを見ることができ、それがまた豊富に用意されていて非常にいいのではないかと思います。</p>
佐野委員	<p>私も、東京書籍ではデジタルコンテンツだけでなく、教科書内の情報量もたくさんあり、単語数も多くなっているのがとてもよいと思います。その点では、小学校で採択した啓林館は、単語数が他の教科用図書よりもやや少ない感じがしておりました。小学校の教科用図書としては適しているということで採択いたしました。今回の中学校の外国語としては少々物足りないように思っております。</p>
西村委員	<p>小学校では啓林館の「Blue Sky」だったわけですがけれども、小学校と中学校で採択する教科書会社が違っていると、変わってくるということで何か影響などはあるのでしょうか、ないのでしょうか。</p>
教育部長	<p>今、委員の方々からありましたように小学校は「Blue Sky エレメンタリーコース」という啓林館を使用しました。採択したときの流れは、小学校の外国語が教科化される中で、子供にとっても、教える教員にとっても一番いい教科書ではないかということで啓林館が採択されました。ただ、それにつながる中学校というのは、従来から英語の授業があるので、それから言うと異なる教科書会社を採択しても影響はないというふうに考えています。</p> <p>先ほど佐野委員がいわれた単語数につきましては、東京書籍が3学年で2,367、開隆堂が2,106、三省堂が2,561、教育出版が2,267、光村図書が2,188、啓林館が1,965という形で、確かに啓林館の単語数は少し少ない。そういったことを考えると、やっぱり語学ですので、単語は多いに越したことはありません。東京書籍については、そういうふうな語彙力を高める中でも最適ではないかというふうな数字は出ております。</p>
西中委員	<p>東京書籍は、他社よりも何かサイズが大きいんですね。これによって非常に見やすく、見開き2ページですから非常にバランスがよくて、学年が進むと非常に文字数が多くなっていくから、版が大きいというのは非常にいいんじゃないかと思います。</p>
教育部長	<p>今、西中委員がおっしゃった東京書籍は、選定委員会の中では中学校の生徒が使う中で、大きいのが本当にいいのかという部分もあり、そこが唯一課題かなというふうな意見もありました。けれども、今、委員がおっしゃったような形と総合的なところでサイズにこだわらずに考えていただけたらなと思います。</p>
木寄教育長	<p>それでは、これまでの各委員のご意見をまとめますと、東京書籍の教科用図書の採択が適切であるように思われますけれども、ご意見のほうはございませんか。</p>
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ないようでございますので、外国語（英語）についてお諮りいたします。</p> <p>ただいまのご質疑、報告を踏まえまして、中学校外国語（英語）の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。



木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校外国語（英語）の教科用図書は、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」に決定いたします。</p> <p>それでは、続きまして、中学校特別の教科道徳についての審議をお願いいたします。</p> <p>各者の教科書の特徴について、選定委員会からのご意見をお願いいたします。</p>
教育部長	<p>特別の教科道徳について、7社ございます。各社とも、学習指導要領のよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に自己を見詰め、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるという内容のために工夫がされております。</p> <p>まず、東京書籍ですが、学年を追って深く考えられるよう、一つの内容を項目ごとに教材を系統的に配慮し、人間としての生き方についての考えを深める学習が展開できるように組織化されています。</p> <p>教育出版では、じっくり考え、話し合う時間を十分に確保できるよう、教材の分量や形式を工夫、吟味されています。学びの流れも分かりやすく示されています。</p> <p>光村図書では、全学年を通して、生命の貴さ、いじめの防止に力点が置かれ、関連する教材をユニットとして複数設け、発達段階に応じて考えを深める機会が設けられています。</p> <p>日本文教出版は、いじめを多面的、多角的に考えるユニットを複数配置しています。また、別冊の道徳ノートで考え、議論する授業を展開でき、評価や家庭との連携に活用できるようになっています。</p> <p>学研教育みらいは、プラス思考と未来志向を備えた生徒の育成を目指し、物事を多面的、多角的に考えて議論し、自らの生き方を深く考えることができる工夫がされています。</p> <p>廣済堂あかつきでは、生徒が自分事として考えたり、考えを深めたりすることができる教材が精選されており、道徳を構成する諸要素を偏りなく養うことができるような配慮がされています。</p> <p>日本教科書では、生徒が自分自身にしっかりと向き合うワークが用意され、考えることができる、議論することができるように工夫がされています。</p> <p>各教科書ともそれぞれに工夫はされていますが、選定委員会では、保護者の代表から、教科書が変わることで子供たちが戸惑うことについて危惧する意見が出ていました。また、学校の代表である校長先生の代表は、前回の採択から2年しか経過しておらず、現在使用している日本文教出版の教科書を活用し、教材研究を進めていることから、少なくともあと1年は継続して使用したいとの意見も出ていました。資料作成委員会からは、道徳ノートの改善により、さらに活用しやすいものとなっているとの報告もありました。これらを踏まえ、今回は全面改定ではありませんが、現在と同じ日本文教出版の教科書を継続して活用するほうがよいのではないかという意見が選定委員会では出ておりますので、併せて添えさせていただきます。</p>
木寄教育長	<p>ただいま選定委員長のほうから、日本文教出版の教科書の継続使用について報告をされておりますけれども、この点について委員の皆様方のほうからご意見をお願いしたいと思います。</p>
佐野委員	<p>2年前に道徳が教科化されたときに、私たちは十分な検討をして現行の教科書を採択したことを考えますと、継続しての使用というのは</p>

	<p>当然のことではないかなと思っております。</p> <p>そこで、これまで2年間使ってきて、現場の先生方から日本文教出版の教科書について、特に使いにくいという意見はございましたでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>使い始めて1年と少々というぐらいたっているんですけども、現在のところ、道徳ノートの活用も含めまして、そういった意見が多く上がっているという報告はありません。</p>
西村委員	<p>継続しようというご提案なんですけど、一応全面改定ということだと思いますので、取り上げられている教材とか、それは変わっているとかというのはあるんでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>もちろん変更されている教材もございますが、前回採択されたときに採択理由として重視されましたいじめについての丁寧な記載というのは、今回の教科書においても同様に継続、継承されています。</p>
西中委員	<p>道徳が教科化されて、評価ということが一番先生方の頭を悩ます問題だと思うんです。そういう意味で前回も、道徳ノートというのが分冊になっているところが非常にいいのではないかと。これは家庭との連携、これにいろいろ子供たちが道徳について学んだこと、自由に自分にプラスワンということでもまた自分の考えたものも書くことで、自分の道徳的な心情の高まりの深まっていく過程が分かると同時に、先生方にとったら、これを提出してもらって、ある程度成績の資料としても使いやすいのではないかとということで私は継続使用に賛成です。</p>
吉村委員	<p>生徒側、教員側ともに研究では使いにくいとか否定的な意見はないというふうに報告をいただきましたので、生徒側、教員の教材研究などの負担を軽減するという意味では、日本文教出版の継続使用というのが適切ではないかなと思います。</p>
木寄教育長	<p>それでは、これまでの各委員のご意見をお伺いしておりますと、日本文教出版の教科用図書の採択が適切であるように思われますけれども、ご意見等はございませんか。</p>
各委員	なし。
木寄教育長	<p>それでは、ないようでございますので、特別の教科道徳についてお諮りいたします。</p> <p>ただいまの質疑、報告を踏まえまして、中学校特別の教科道徳の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することにご異議ございませんか。</p>
各委員	異議なし。
木寄教育長	<p>異議なしということでございますので、中学校特別の教科道徳の教科用図書は、日本文教出版の「中学道徳・道徳ノート」に決定をいたします。</p> <p>以上で、中学校の全種目を決定いたしましたので、ここで再確認をしたいと思います。</p> <p>まず、中学校国語、東京書籍「新しい国語」。</p> <p>次に、中学校書写、東京書籍「新しい書写」。</p> <p>中学校社会（地理的分野）、帝国書院「社会科 中学生の地理」。</p> <p>中学校地図、帝国書院「中学社会科 地図」。</p> <p>中学校社会（歴史的分野）、帝国書院「社会科 中学校の歴史」。</p> <p>中学校社会（公民的分野）、日本文教出版「中学社会 公民的分野」。</p> <p>中学校数学、日本文教出版「中学数学」。</p> <p>中学校理科、新興出版社啓林館「未来へ広がるサイエンス」。</p> <p>中学校音楽（一般）、教育芸術社「中学生の音楽」。</p>

	<p>中学校音楽（器楽合奏）、教育芸術社「中学生の器楽」。  中学校美術、日本文教出版「美術」。  中学校保健体育、学研教育みらい「中学 保健体育」。  中学校技術家庭（技術分野）、開隆堂「技術・家庭（技術分野）」。  中学校技術家庭（家庭分野）、開隆堂「技術・家庭 家庭分野」。  中学校外国語（英語）、東京書籍「NEW HORIZON English Course」。  中学校特別の教科道徳、日本文教出版「中学道徳・道徳ノート」。  以上が令和3年度使用中学校教科用図書と決定いたしました。</p>
採決	可決。これで閉会とする。